



| | 2月 | | | | 3月 | | | |
|-------|------|------|------|--------|------|------|------|--------|
| | 最高気温 | 最低気温 | 平均気温 | 雨量(mm) | 最高気温 | 最低気温 | 平均気温 | 雨量(mm) |
| 本年 | 18.6 | 12.5 | 15.2 | 57.5 | 20.8 | 14.3 | 17.4 | 56.0 |
| 平年 | 19.0 | 13.3 | 16.3 | 98.9 | 20.3 | 14.2 | 17.3 | 137.0 |
| 平年との差 | -0.4 | -0.8 | -1.1 | -41.4 | +0.5 | +0.1 | +0.1 | -81.0 |

製糖期を終えて

生和糖業株式会社
代表取締役社長 平田 勝造

今期の製糖は、3月29日の最終圧搾で終了しました。農家のみなさま、大変お疲れ様でした。

1月6日より78,000トンの計画で開始したものの、キビの搬入実績から68,000ト、65,000トと、順次下方修正し、最終的には64,397トで終わっています。糖度は平均13.43度で、基準糖度帯以下が35.8%と、収量だけでなく品質面でも大きく見劣りました。

2012年～13年の2年続きの大不作から、昨年は80,105トと回復したものの、再度大きく落とす結果となりました。この原因は10月初めの連続した台風の影響が一番大きいですが、春先の低温による茎数不足やメイチュウ被害も大幅減収の一因であります。

台風襲来前の調査でも茎数不足の指摘がありましたし、昨夏の新植でメイチュウの発生が問題になっていました。新植キビだけでなく搬入キビでも、メイチュウ被害が目立ちました。そして今期の特徴は、メイチュウによる侵食へ台風の強風が加わったことで折損したキビが特に目立ちました。

台風や低温は人の力ではどうしようもなく、来期の課題となるのは、このメイチュウ対策です。今後、糖振協等で駆除運動が展開されると思いますので、全島挙げて取り組むようお願いいたします。こまめに圃場を管理し、雑草を生やさないのも対策の一つです。

春植えや施肥・中耕等を終えた農家もあり、既に来期に向けた作業が始まっております。

2012年～13年は不作が2年続きでしたが、今回は今期1年限りで終わるように今まで以上に適宜作業の実施をお願い申し上げます。

年別収穫面積・生産量の推移

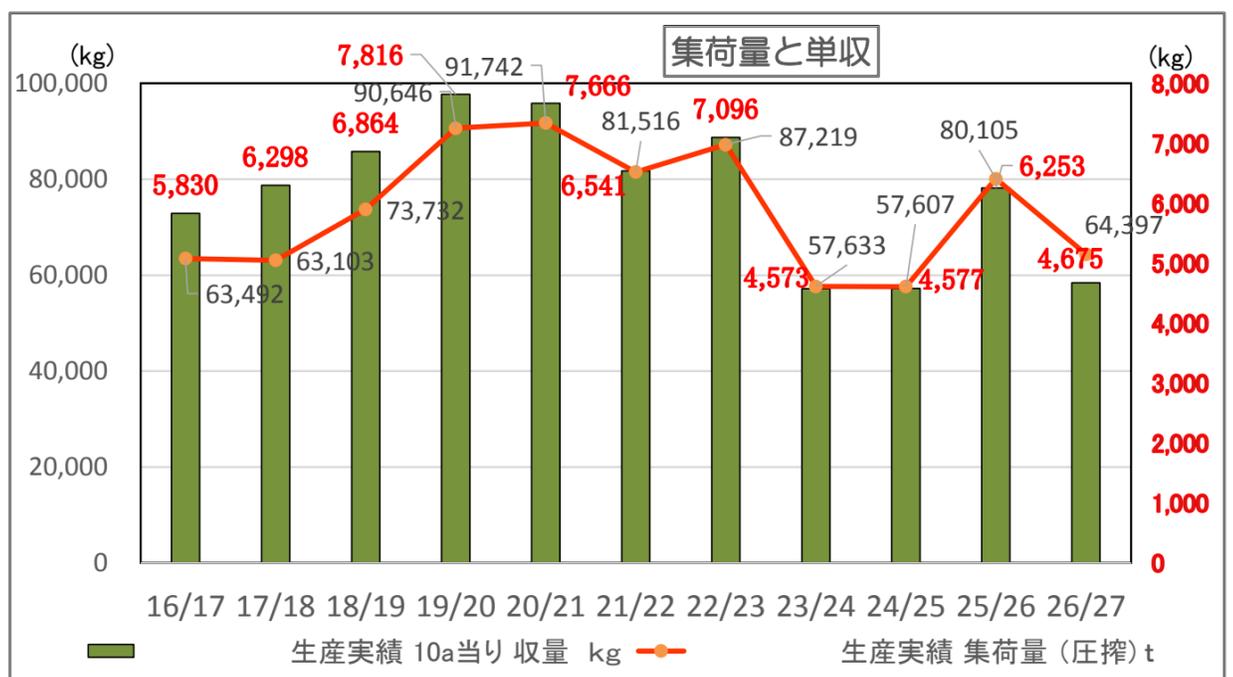
| 各年 | 夏植 | | | 秋植 | | | 春植 | | | 株出 | | | 合計 | | |
|---------|--------|------------|--------|--------|------------|--------|--------|------------|--------|--------|------------|--------|---------|------------|---------|
| | 面積(a) | 単収(kg/10a) | 生産量(t) | 面積(a) | 単収(kg/10a) | 生産量(t) |
| H26/27年 | 26,829 | 6,349 | 17,034 | 12,854 | 5,532 | 7,111 | 15,082 | 3,777 | 5,695 | 82,972 | 4,165 | 34,557 | 137,737 | 4,675 | 64,397 |
| H25/26年 | 27,358 | 7,598 | 20,785 | 13,495 | 7,364 | 9,937 | 13,240 | 5,744 | 7,605 | 74,005 | 5,645 | 41,778 | 128,098 | 6,253 | 80,105 |
| 前年との差 | -529 | -1,249 | -3,751 | -641 | -1,832 | -2,826 | +1,842 | -1,967 | -1,910 | +8,967 | -1,480 | -7,221 | +9,639 | -1,578 | -15,708 |
| H24/25年 | 27,619 | 5,724 | 15,809 | 11,529 | 5,468 | 6,303 | 13,836 | 3,737 | 5,171 | 72,881 | 4,161 | 30,324 | 125,865 | 4,577 | 57,607 |

さとうきびの買入糖度・買入価格・トラッシュ率・工場歩留の推移

| 各年 | 買入糖度(%) | 糖度帯(%) | | | 平均買入価格(交付金込) | 対前年比(%) | トラッシュ率(%) | 工場歩留(%) |
|---------|---------|--------|------|------|--------------|---------|-----------|---------|
| | | 基準以下 | 基準内 | 基準以上 | | | | |
| H26/27年 | 13.43 | 35.8 | 44.0 | 20.2 | 21,500 | 96.9 | 8.32 | 11.85 |
| H25/26年 | 14.37 | 9.5 | 38.3 | 52.2 | 22,191 | 104.1 | 9.20 | 12.58 |
| H24/25年 | 13.98 | 21.9 | 43.7 | 34.4 | 21,327 | 98.7 | 8.96 | 12.51 |

年度別さとうきび生産実績の推移

| 期別 | 年度(平成) | 農家戸数 | 生産実績 | | | |
|----|--------|------|---------|------------|-----------|--------|
| | | | 収穫面積 ha | 10a当り収量 kg | 集荷量(圧搾) t | 買入甘蔗糖度 |
| 46 | 16/17 | 790 | 1,089 | 5,830 | 63,492 | 12.10 |
| 47 | 17/18 | 790 | 1,002 | 6,298 | 63,103 | 14.10 |
| 48 | 18/19 | 790 | 1,074 | 6,864 | 73,732 | 14.77 |
| 49 | 19/20 | 728 | 1,160 | 7,816 | 90,646 | 14.60 |
| 50 | 20/21 | 750 | 1,197 | 7,666 | 91,742 | 15.19 |
| 51 | 21/22 | 685 | 1,246 | 6,541 | 81,516 | 14.47 |
| 52 | 22/23 | 666 | 1,229 | 7,096 | 87,219 | 14.34 |
| 53 | 23/24 | 667 | 1,260 | 4,573 | 57,633 | 13.93 |
| 54 | 24/25 | 662 | 1,259 | 4,577 | 57,607 | 13.98 |
| 55 | 25/26 | 657 | 1,281 | 6,253 | 80,105 | 14.37 |
| 56 | 26/27 | 645 | 1,377 | 4,675 | 64,397 | 13.43 |



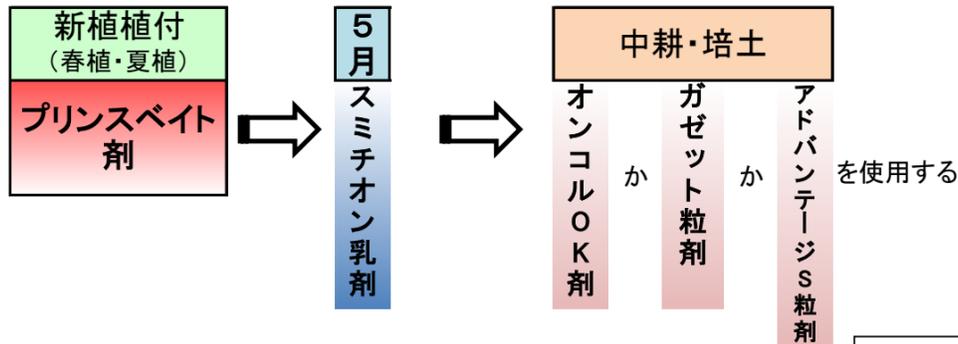
単収増 対策

昨年は生産量が8万トに回復したものの、今期はメイチュウ被害が多発し減収の大きな要因となりました。

メイチュウの蔓延化を防がなければ収量アップにはつながりません。喜界町（糖業部会）では一斉防除や適期防除対策を計画中です。防除作業の徹底により収量アップと品質向上に取り組みましょう。ハリガネムシやメイチュウ、チンチバックを防除するには薬剤を併用して害虫防除をしなければなりません。同じ薬剤は使用限定がありますので、スミチオンやオンコルOK、ガゼット、アドバンテージ等の粒剤と組合せて使用します。

そして、面積の多くを占める株出の管理も増収の大きな要素になります。メイチュウ等の害虫防除と株出管理、肥培管理をして不作を脱却しましょう！
下記は防除の方法で、薬剤を組み合わせた一例と株出管理のポイントを上げてみました。

《 薬剤散布 例 》ハリガネムシ、メイチュウ、チンチバック等に効力を発揮



メイチュウ



サムコルフロアブルについて

イネヨトウの防除薬として、昨年7月にさとうきびにも追加登録されたサムコルフロアブルを、メイチュウ防除対策農薬助成として配布しました。イネヨトウへの新しい防除薬剤でさとうきびを守ります。

特徴

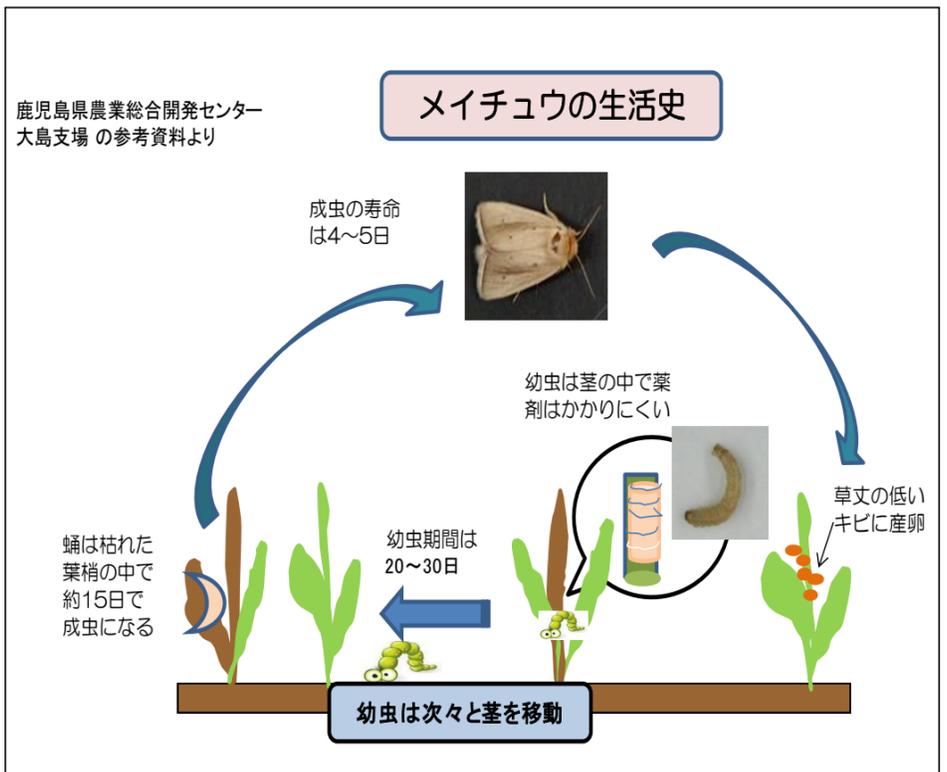
- 1 新有効成分リキナシビルによる新しい作用性**
チョウ目害虫のイネヨトウに高い効果を示し食害を速やかに停止させる。
- 2 葉内への浸透性と耐雨性**
有効成分が葉内に浸透し、散布後に降雨があっても効果が続く。
- 3 長い残効性**
幼虫が侵入する前に、残効を活かした早めの散布でより効果的な防除ができる。
- 4 天敵への高い安全性**
天敵への影響が少なく、天敵の効果を活かした防除が可能である。

使用方法

| | |
|---------|----------------|
| 作物名 | さとうきび |
| 適用害虫名 | イネヨトウ |
| 希釈倍数 | 5,000 倍 |
| 使用液量 | 100～300ℓ / 10a |
| 使用時期 | 収穫30日前まで |
| 本剤の使用回数 | 3 回以内 |
| 使用方法 | 散布 |



200ml



株出管理で収量アップ！

メリット

- 1 夏植（1年半）と比較して栽培期間が短い
(収穫した翌年にはまた収穫が可能)
- 2 耕耘、採苗、植付などの作業が不要で労力が低減される
- 3 低コストである（施肥等）

収穫機械による株の引抜きや損傷により生じた欠株を補植することにより**茎数を確保でき収量がアップし、次年度への増収**にもつながる。限られた面積の中でより単収を上げるには欠株補植が重要となります。補植により茎数を確保し、収量アップにつなげましょう！

また、新植時に公益財団法人喜界農業開発組合から販売される**ハカマ、フィルターケーキ、EM菌**の混じった**有機物資材**の投入も収量アップにつながります。



堆肥散布

効果



台風や気象災害は回避できないがメイチュウの生態密度の減、又チンチバックも収穫後のハカマのすき込みにより減数する！！

結果



結果

単収アップにより収量増になる！！

編集後記

★少子高齢化社会を迎え、多方面に問題が浮かびつつある。高齢世代の社会福祉制度の持続不安、年金支払額が目減りや受給年齢の引き上げ、年金制度を維持する労働者の経済負担増・・・日本社会の年齢層が高くなっている。★本町でも小中学校の統廃合は、人口の流失や少子化の要因であろう。公園には子どもの姿は無く、ゲートボールに興じる高齢者を見かける。高齢化に伴い介護も家庭問題となっているとも聞く。
★運動や飲食など生活習慣の見直しで健康寿命を延ばし楽しい人生を送り、そして、子どもを産みやすい、育てやすい環境作りが必要ではなかろうか？

